

## 古川委員長記者会見

～ 参議院選挙における政権公約に対する各党への共通要請後～

平成 19 年 5 月 24 日 (木) 16 : 45 ~ 17 : 00

6 階 知事室

政権公約評価特別委員会委員長を務めております、佐賀県知事の古川康でございます。お忙しい中、来て頂きましてありがとうございます。今回お配りした資料は、お手元にある概要版とフルバージョンのペーパー 2 種類ございまして、自民党・民主党・公明党の 3 党に対し数分間において、その内容を説明させて頂きました。対応者は、自由民主党は中川昭一政務調査会長、ご本人。公明党は斉藤政務調査会長、ご本人。民主党におかれては赤松副代表と松本政策調査会長はじめ、ちょうど会議が行われるということで政調の関係者の方が数名いらっしゃいました。

それぞれの各党における感触をご報告申し上げますと、自民党におかれましては、自民党としてもまさにこれからやっていくところだということでございまして、その中において、今日の全国知事会の共通要請をどの政党に持って行かれるのかというようなこととか、そういったことに対するお尋ねがございました。

また、公明党については中身の検討をこれから行うので、その際の参考にさせていただくというお話がございまして、大体、6 月中旬には全体像を明らかにしたいとのお話がございました。

民主党におかれては、その具体的な内容についてのお尋ねがございまして、たとえば、分権を進めていく際の基本的な考え方がありますとか、その 5 : 5 にしていく道筋論がありますとか、そういったことについても若干のやりとりがございました。

以上が大体の感触でございましたが、特に公明党・民主党の両党におかれては、私どもが要請の最後に掲げておりました全国知事会と意見交換会を行うことについて前向きなご返答が得られたと理解しております。

自民党におかれては、前回、自民党と意見交換会をさせて頂いておりまして、そのことも紹介させていただきました。自民党として、今回どうするかについてはこれから検討するということだったと理解しております。総じてこういう対応をして頂いたということで、また、改めて全国知事会としての考え方を聞きたい、また色々全国知事会に言いたいこともあるということだったのかなと思っているところであります。私からは以上であります。

(記者からの質疑)

日本経済新聞 下村

・公明・民主とは中身についてやりとりがあったということだったが、自民党との具体的な中身のやりとりはなかったのか？

やりとりというものは、あまりありませんでした。今日のところはとりあえず聞いておくということで、自民党は自民党としても選挙に向けた公約を作っている中で、その中でしっかりと議論していくという風なお話でございました。

・午前中の委員会で麻生知事もおっしゃっていましたが、これから各党へのフォローをどうしていくかということについては、知事会としてしっかり評価していきますよということは各党におっしゃったのか。

実は、うっかりしていて、評価をするということと言わなくてはいけなかったのですが、言うのを忘れていました。ただ、そのところは、またこれから色んなやりとりをさせて頂きますので、意見交換の機会も持たせて頂きますので、そうした折りにそこはしっかりと伝えていきたいと思っております。最初忘れていたので、次は言わなくちゃと思っていたのですが、また忘れてしまって、忘れついでに最後も忘れてしまいました。その意味では3党バランスとれてよかったかなと思っておりますけれども、いずれにしても意見交換会について大変前向きだったことは良かったかなと。自民党もやらないとおっしゃったわけではなくて、今回は当時柳沢政調会長代理とですね、麻生会長と当時の山田京都府知事、当時の委員長ですから、お二人で色々と意見交換をやっているわけですから、ということもご紹介させていただいて、「そうか」ということであります。3党とはぜひ意見交換をして、その中ではそういう評価のことも申し上げたいと思っております。

共同通信社 本村

・今後のスケジュールで6月中旬に働きかけをやって、最終的に6月下旬に評価するということがあったが、6月下旬の評価の場はどのような場所で評価なり、公表・発表されるご予定か？

確定はしておりませんが、全く場がなければ全国知事会単独で何か発表する場を作らなくてはいけないかもしれないが、21世紀臨調の方で、前回の国政選挙の際にも全国知事会の他、色んな各界・各層の代表者が、各党のマニフェストを評価するという機会をもって頂きましたので、全国知事会としてもまず21世紀臨調にそうした会の開催を働きかけをしたいと思っております。そうすることによって、重層的に評価が得られるのではないかと考えております。

・今回、知事会としてこういう要請だったが、六団体として、こういう風なことはお考えにはなっていないでしょうか？

これは良いヒントを頂いたのかもしれませんが、全国知事会の中の委員会ということで、全国知事会として活動してきましたが、そこは他の市長会・町村会にも聞いてみたいと思います。どういう考えをお持ちかということ。共通の事項については共通の動きをしていくということが考えられるのか、また、逆にそれぞれやっていくということで、そっちの方が存在感があるということになっていくのか。市長会・町村会と関心部分が違うところもあるかもしれませんので。そこは考えたことがなかった議論なので、これから考えてみたいと思います。

日本経済新聞 下村

・民主党とのやりとりの中で、5：5の道筋について話が出たということだったが、具体的に民主党から知事会の目標について賛否の意見はあったのか？

否の方はなくてですね、民主党も基本的にその方向を目指しているということなんだよねということでありますとか、そういったことを実現していくためにふるさと納税は有効か否かとかですね。そんな風なやりとりもございました。私どもはまず分権ありきで、分権を進めていく中で、地域間格差解消の問題もぜひという言い方をしていましたけれども、民主党さんの方では、地域間格差というのは俺たちが本家・本元なんだ、元祖だとおっしゃっていました。特に道州制について、民主党のところでは、私に対してというよりも、メンバーの中で議論が行われていて、これについて民主党の方ではやろうということではない。分権を進める、あくまで手段であるはずで、地方分権を進めていくのに果たして道州制がワークするのかわからないのか。議員の中には、むしろ今、道州制を導入したらかえってマイナスだという意見もあるという。いずれにせよ我々の考えは、分権を進めるためにどちらの方法が有効なのかということを考えていくというお話と、そういったことをやっていくためには、何より基礎自治体の強化・充実が必要になると思うがその点はどうかというお尋ねがありまして、それは私ども神野委員会の報告にもでているように、基礎自治体の充実・強化は必要だと考えているということを申し上げております。

それと、憲法問題について。民主党とのやりとりの時間が一番長かったのですが、憲法問題についてはこの政権公約の中では自分たちは議論をしないという風に決めていると。ただ、今回の選挙にあたって、何のメッセージも発しないということではなくて、民主党と憲法の関わりとか、民主党のスタンスを出すことになるだろうという発言がありました。

(他に記者からの質問はなし)

古川佐賀県知事：それではこれで会見を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

(以上)